

「FUKUOKA NEXT」



福岡市消防局長 谷山 昭

玄界灘と脊振山地に囲まれた福岡市は、日本一の外国航路旅客者数を誇る博多港をはじめ、都心から半径5km圏内に、航空・鉄道・高速道路など、多様な輸送手段が集積し、豊かな自然と開放的な気質、おもてなしの都市文化が脈々と息づいたアジアとの「交流拠点都市」として発展してまいりました。

また、英国のグローバル情報誌「MONOCLE（モノクル）」が公表した2014年版の「世界で最も住みやすい都市ランキング」で第10位に選出されるなど、元気なまち、住みやすいまちとして世界的にも認知され、人口減少が危惧される現在においても、推計人口は152万人を超え、今なお増え続けております。

本市においては、平成24年12月に、市民とともに策定した「福岡市総合計画」において、「都市の成長」と「生活の質の向上」の好循環を創り出すことを基本戦略として掲げ、「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」を目指したまちづくりを進めており、この成果が、情報誌での評価につながったのではと考えています。

今年度は、「都市の成長」と「生活の質の向上」の好循環を確かなものとするため、福岡市を次のステージへと飛躍させるための施策を「FUKUOKA NEXT」として、市をあげて取り組んでおります。

消防行政におきましても、今年度を、「改革・前進の年」と位置付け、体制の強化を図りながら、以下の4点について特に推進しております。

1点目は、災害防ぎょ活動体制の充実です。平成30年春に予定している市中心部の消防署所の再編整備により、市域全体の災害即応体制の強化を進めております。さらに、広域的な取り組みとして、平成29年度から福岡都市圏において消防通信指令業務の共同運用を行うこととしており、都市圏の連携強化を推進しております。また、「消防NEXT」として、区役所等関係機関と連携し、地域防災力の強化に取り組んでいるところであります。

2点目は、防火・防災体制の充実です。平成25年に本市で発生した有床診療所火災等を踏まえ、今年度新設した査察課を中心に、立入検査、避難訓練指導等の査察指導体制を強化するとともに、関係部局との合同査察や情報共有の徹底を図るなど連携を強化しております。

3点目は、救急体制の充実です。市内の全ての救急告示病院（39医療機関）で構成される福岡市救急病院協会との緊密な連携もあり、救急搬送の受け入れは、救急隊から3回以内の病院問い合わせで99%の搬送先が決定するなど、本市の救命率の高さを裏付ける、充実した体制が構築できております。しかしながら、なお増え続ける都心部の救急需要の増加に対応し、消防本部に新たに救急隊を配置し、救急体制の強化を図っております。

4点目は、人材育成等の推進です。団塊の世代の大量退職等により、この10年間において全職員の約4割が入れ替わる状況となっております。若手職員の増加や火災件数の減少による災害活動経験の不足を補うため、あらゆる災害を想定した「実戦型訓練」を充実させるとともに、消防学校の体制を強化し、災害対応能力の向上及び人材育成の強化を図っております。

このように、本市では様々な施策を展開し、安全で、安心して暮らせるまちづくりを推進しているところであり、今後も、消防行政に対する市民ニーズや社会情勢を的確にとらえながら、直面する様々な課題に適切に対応してまいりたいと考えております。

